

令和2年度用 わくわく算数5 単元別学習内容一覧

本資料は、令和2年度用教科書「わくわく算数5」に基づいて、学校での授業と、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。なお、答え合わせについては、児童の実態に合わせて、学校の授業以外の場で児童自らが行うことや、学校の授業で短時間でやることなどが考えられます。

平時に授業で行うことを想定していた学習活動のうち、学校の授業以外の場(**授業外**)で取り組むこととしている学習活動には**黄色のアミ**をつけています。

●一覧表の見方

1 整数と小数				指導時数・時期
小単元	時	ページ	目 標	学習内容
○ 整数や小数について、10倍や1/10にしたときの小数点の移動の仕方を通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。 (知) ・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍した数や、1/10、1/100、1/1000にした数を求めることができる。 (思) ・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を10倍、100倍、1000倍したり、1/10、1/100、1/1000にしたりしたときの小数点の移動の仕方を知ることができる。 (態) ・十進数の仕組みのよさに気づき、小数の仕組みや表し方について深く学ぼうとする。				4時間(授業内3時間) 2学期制: 4月上旬~4月中旬 3学期制: 4月上旬~4月中旬
じゅんぴ		248	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「小数」
(課題設定)	1	10 11	○整数や小数の仕組みを考慮することを通して、単元の課題をつかむ。 ○小数点の位置に着目し、整数や小数を10倍、1/10にしたときの表し方を考えることができる。	・既習の数の見方のふりかえりと学習の動機づけ ・10倍や1/10にしたときの小数点の移動
	2	12	○10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みを理解することができる。	・記数法の仕組みと100倍や1000倍したときの小数点の移動
	3	13	○1/10、1/100、1/1000にしたときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みの理解を深めることができる。	・記数法仕組みと1/100や1/1000にしたときの小数点の移動
学びのまとめ	4	14~15	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題

4時間 (授業内3時間)
↓
 平時の授業時数
 ↓
授業外で取り組む学習活動を除いた場合の時数

予習や復習として、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例
 ※は指導上の留意点

黄色のアミ
 平時に授業内で扱うことを想定した学習活動のうち、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例

●年間配当時数

	1 学期	2 学期	3 学期	年間
平時の授業の時数	57 (予備時数 8)	64 (予備時数 6)	37 (予備時数 3)	158 (予備時数 17)
授業外(黄色のアミ) を除いた場合の時数	46 (予備時数 19)	53 (予備時数 17)	29 (予備時数 11)	128 (予備時数 47)

第5学年 単元別学習内容一覧

◎ わくわく算数学習					
目 標					指導時数・時期
○ 小数点以下の桁数の違う小数の加減計算について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して小数の加減計算についての理解を深めるとともに、学びを深めよう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。					1時間 (授業内1時間) 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬
(知) ・算数学習を進める手順や、ことばや図や式などを用いて考え、説明する仕方を知る。また、話し合いのよさなどを理解し、それらに必要な事柄を取り上げることができる。 (思) ・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりすることができる。 (態) ・学習の進め方に関心を持ち、話しあい活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
(課題設定)	1	6～9	○小数の加法・減法の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・小数点以下の桁数の違う小数の加減計算 ・学習の進め方、ノートのかき方	

1 整数と小数					
目 標					指導時数・時期
○ 整数や小数について、10倍や1/10にしたときの小数点の移動の仕方を考えることを通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 (授業内3時間) 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
(知) ・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍した数や、1/10、1/100、1/1000にした数を求めることができる。 (思) ・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を10倍、100倍、1000倍したり、1/10、1/100、1/1000にしたりしたときの小数点の移動の仕方を考えることができる。 (態) ・十進数の仕組みのよさに気づき、小数の仕組みや表し方について深く学ぼうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	248	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「小数」	・p.248の「①じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	10 11	○整数や小数の仕組みを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○小数点の位置に着目し、整数や小数を10倍、1/10にしたときの表し方を考えることができる。	・既習の数の見方のふりかえりと学習の動機づけ ・10倍や1/10にしたときの小数点の移動	・予習として、p.10の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。
	2	12	○10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みを理解することができる。	・記数法の仕組みと100倍や1000倍したときの小数点の移動	
	3	13	○1/10、1/100、1/1000にしたときの小数点の位置の移動について考え、数の仕組みの理解を深めることができる。	・記数法仕組みと1/100や1/1000にしたときの小数点の移動	
学びのまとめ	4	14～15	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

2 体 積

目 標					指導時数・時期
○ 直方体や立方体の体積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、体積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 (授業内 7時間) 2学期制：4月中旬～4月下旬 3学期制：4月中旬～4月下旬
(知) ・体積や容積の意味がわかり、単位「cm ³ 」「m ³ 」を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。 (思) ・長方形や正方形の面積の求め方や公式をもとにして、直方体や立方体の体積の求め方や公式を考えたり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりすることができる。 (態) ・単位となる大きさの何個分としてももの大きさを数値化することのよさがわかり、進んでこれを活用しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	248	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「面積」	・p.248の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	16	○直方体と立方体の大きさ比べを通して、体積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・箱のかさ比べによる体積の表し方や求め方の動機づけ	・予習として、p.16の絵や図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①直方体・立方体の体積		17	○体積の単位cm ³ について知り、cm ³ を使って体積を表すことができる。	・体積の単位cm ³ を使った体積の表し方 《体積, cm ³ 》	
	2	18～19	○直方体や立方体の体積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	・直方体と立方体の体積の求め方と求積公式	※本時の学習後であれば、p.25の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
	3	20	○L字型などの複合立体図形を分割したり、補完したりして、その体積を直方体の体積公式を使って求め、説明することができる。	・複合図形の体積の求め方	
②大きな体積	4	21	○長さの単位に着目して、辺の長さがmで表された直方体や立方体の体積を求めることができる。 ○単位m ³ について知り、m ³ を使って体積を表したり、cm ³ との関係を理解したりすることができる。	・1m ³ の意味と体積の表し方、m ³ とcm ³ の関係、1m ³ =1000000cm ³ 《m ³ 》	※本時の学習後であれば、p.25の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
③容積	5	22	○容積の意味を知り、その求め方を考えることができる。 ○水などの体積を表すときによく用いられる単位Lとcm ³ の関係を理解することができる。	・容積の意味と求め方、Lとcm ³ の関係、1L=1000cm ³ 《容積》	
	6	23	○1m ³ の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその体積や容積を求めたりすることができる。	・1m ³ づくり、身のまわりのおよその体積や容積	
④体積の単位の関係	7	24	○単位の仕組みに着目して、長さ、面積、体積の単位の関係を考えることができる。	・長さの単位をもとにした面積や体積の単位の関係	※p.24の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 ※本時の学習後であれば、p.25の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	8	25	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
学びのまとめ	9	26～27	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

3 比 例

目 標					指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して比例の意味を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 (授業内 2時間) 2学期制：5月上旬 3学期制：5月上旬
(知) ・比例の意味を知り、簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。 (思) ・簡単な場合について、比例しているかどうかを判断することができる。 (態) ・伴って変わる2つの数量の関係に関心をもち、進んで表や図を使って考えたり、説明したりしようとする。					

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	249	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「変わり方」	・p.249の「③じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	28 29～30	○レンガや植木鉢を積み重ねたときの高さの変わり方を考察することを通して、単元の課題をつかむ。 ○伴って変わる2つの数量の変わり方を調べて、比例する関係をとらえる。	・伴って変わる2つの数量をみつけること、2つの数量の関係を調べることの動機づけ ・比例の定義、直方体の高さと同積の比例関係 《比例する》	・予習として、p.28の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	31	○比例の定義をもとに、かけ算の式の意味をとらえ直すことができる。 ○数直線図について知る。	・比例にもとづいたかけ算の意味の見直し、数直線図	

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内0時間) 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	32～33	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

4 小数のかけ算					
目 標					指導時数・時期
○ 小数をかける計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11時間 (授業内9時間) 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬
(知) ・小数の乗法の意味やその仕方を理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。					
(思) ・小数の乗法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。					
(態) ・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の乗法の意味とその計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	249	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「小数×整数」	・p.249の「④じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	34 35	○生活場面から、小数をかけるかけ算について考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(整数)×(帯小数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、理解することができる。	・既習のふりかえりと小数をかける学習の動機づけ ・(整数)×(帯小数)の立式とその根拠	・予習として、p.34の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①整数×小数	2	36～37	○(整数)×(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)×(帯小数)の計算の仕方	
	3	38～39	○(整数)×(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。 ○被乗数と積の大小関係を調べ、乗数の大きさによることを理解する。	・(整数)×(純小数)の立式と計算の仕方 ・乗数と積の大きさの関係	※本時の学習後であれば、p.43の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
②小数×小数	4	40	○(小数)×(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)×(小数)の立式と計算の仕方	※本時の学習後であれば、p.43の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
	5	41	○小数をかけるかけ算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(小数)の筆算の仕方、積の小数点の位置	
	6	42	○積の末尾の0を消したり、積に空位の0をつけたしたりする場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)×(小数)で0の処理を含む筆算、×3.14の筆算	※本時の学習後であれば、p.43の「練習」の問題4・5は授業外で取り組ませることが可能。

●練習	7	43	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・ 授業外 で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
③小数のかけ算を使って	8	44～45	○辺の長さが小数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを確かめることができる。	・辺の長さが小数值の場合の面積や体積の求積	
	9	46～47	○小数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算することができる。	・小数の計算の交換法則、結合法則、分配法則	
④割合を表す小数	10	48～49	○割合が小数で表された場面で、小割合や比較量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第1,2用法)	
学びのまとめ	11	50～51	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外 で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.286 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

5 小数のわり算

目 標					指導時数・時期
○ 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					14 時間 (授業内 12 時間) 2 学期制：6 月上旬～6 月下旬 3 学期制：6 月上旬～6 月下旬
(知) ・小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。					
(思) ・小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。					
(態) ・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の除法の意味とその計算の仕方考えようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外 で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」	・p.250 の「⑤じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	52	○生活場面から、小数でわるわり算について考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(整数)÷(帯小数)の場面を式に表し、除法の意味について考え、理解することができる。	・既習のふりかえりと小数でわる学習の動機づけ ・(整数)÷(帯小数)の立式とその根拠	・予習として、p.52 の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①整数÷小数		53			
	2	54～55	○(整数)÷(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)÷(帯小数)の計算の仕方	
	3	56～57	○(整数)÷(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。 ○被除数と商の大小関係を調べ、除数の大きさによることを理解する。	・(整数)÷(純小数)の立式と計算の仕方 ・除数と商の大きさの関係	※本時の学習後であれば、p.63 の「練習」の問題 1・2 は 授業外 で取り組ませることが可能。
②小数÷小数	4	58	○(小数)÷(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)÷(小数)の立式と計算の仕方	※本時の学習後であれば、p.63 の「練習」の問題 3 は 授業外 で取り組ませることが可能。
	5	59	○小数でわるわり算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)÷(小数)の筆算の仕方、商の小数点の位置	
	6	60	○被除数に空位の 0 をつけたしてわり進む場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)÷(小数)でわり進む筆算、÷ 3.14 の筆算	
	7	61	○わり進む場合の筆算で、わり切れないときの商を概数で表すことができる。	・わり進む場合の筆算で、わり切れずに商を概数で表すこと	※本時の学習後であれば、p.63 の「練習」の問題 4・5 は 授業外 で取り組ませることが可能。
	8	62	○余りのあるわり算で、余りの大きさを正しく判断し、筆算で商と余りを求めることができる。	・商と余りを求める計算、余りの小数点の位置	
●練習	9	63	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・ 授業外 で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

③割合を表す小数	10	64～65	○割合や数量が小数で表された場面で、割合や比較量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第1,2用法)	
	11	66～67	○割合や数量が小数で表された場面で、基準量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第3用法) ・コラム「文と図と式」	
	12	68～69	○ $a \times b \times c$ の場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える考え方で解くことができる。	・ $a \times b \times c = d$ の場面で、 a や d を求めるのにまとめて考えて解く問題	
④計算の間の関係	13	70～71	○小数の加減や乗除についても、整数と同じ計算の間の関係が成り立つことを理解する。	・加法と減法、乗法と除法の相互関係	
学びのまとめ	14	72～73	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

6 合同な図形

目 標					指導時数・時期
○ 合同な図形や多角形の角の大きさについて、図形を重ね合わせる活動を通して合同の意味を理解し、合同な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の角の大きさを調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 (授業内 10 時間) 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月上旬
(知) ・合同の意味や性質を理解し、頂点、辺、角の対応をみつけて合同な図形を作図することができる。また、三角形や四角形の内角の和についても理解することができる。					
(思) ・合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形を作図や多角形の内角の和の求め方を通して形や大きさのきまり方を考えたりすることができる。					
(態) ・身のまわりや既習の図形の見方に関心を持ち、進んで合同な図形の性質調べや作図などに取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「三角形」 ・4年「角とその大きさ」	・p.250の「⑥じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	74～75	○図形を重ね合わせる操作を通して、合同の意味を理解する。 ○合同な図形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・合同の意味 ・合同についての学習の動機づけ 《合同》	・予習として、p.74の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①合同な図形	2	76～77	○合同な2つの図形の頂点、辺、角の対応を調べ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。	・合同な図形の性質 《対応する頂点、辺、角》 ・方眼を使った合同な図形を作図	
	3	78	○長方形や平行四辺形、台形を対角線で分けてできた三角形を、合同の観点で考察し、図形についての理解を深める。	・長方形や平行四辺形、台形を対角線で分けて合同の観点で考察すること	
②合同な図形のかき方	4	79	・合同な三角形をかくための見通しを立て、いろいろなかき方を考えることができる。	・合同な三角形の作図の見通し(三角形の決定要素の考察)	
	5	80～81	○合同な三角形のかき方を理解し、3つの方法で作図することができる。	・合同な三角形の作図	
	6	82	○合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、作図することができる。	・合同な四角形の作図	
③三角形・四角形の角	7	83～84	○三角形の敷き詰めや角を集める操作を通して、三角形の3つの角の大きさの和が 180° になることを理解する。	・三角形の内角の和が 180° になること	
	8	85	○三角形の内角の和のきまりを適用して、様々な問題を解く。	・三角形の内角の和の適用題	
	9	86～87	○三角形の内角の和が 180° であることをもとに、四角形の内角の和をいろいろに考えて求めることができる。	・四角形の内角の和が 360° になること	
	10	88～89	○多角形について知り、三角形の内角の和が 180° であることをもとに、多角形の内角の和について調べる。	・多角形の内角の和の求め方ときまり 《多角形》	・予習として、p.88の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1・2で取り上げた正多角形の内角の和について調べる。

学びのまとめ	11	90～91	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
--------	----	-------	----------------	-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

活 わくわく算数ひろば					指導時数・時期
					3時間 (授業内2時間) 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
思 人文字	1	92～93	○文字の形になるように一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係を図に着目して、問題を解く。	・人文字による植木算の問題	
●どんな計算になるのかな	2	94～95	○根拠にもとづいて、小数のかけ算やわり算の演算決定をすることができる。	・小数の乗除計算の演算決定	・予習として、p.94の内容を確認して、これまでの学習をもとにp.95の問題に取り組む。(授業内0.5時間)
●算数の自由研究	3	96～97	○「しきつめもよう」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・多角形の敷き詰め(多角形の内角による360°の構成) ・自由研究の進め方	・テーマを決めて探究する活動は授業外で取り組む。(授業内0.5時間)

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内0時間) 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	98～99	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

7 整 数					
目 標					指導時数・時期
○ 整数の性質について、偶数・奇数や倍数・約数の意味を理解し、倍数や約数の求め方を考えたりそれらを使って問題解決したりすることを通して整数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 (授業内9時間) 2学期制：7月中旬～9月中旬 3学期制：9月上旬～9月中旬
(知) ・偶数・奇数の意味や倍数・約数などの意味を理解し、整数の性質についての理解を深め、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。					
(思) ・整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりすることができる。					
(態) ・偶数・奇数、及び、倍数・約数の意味をもとに、整数の性質を見いだそうとしたり、問題を解決しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんび	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「わり算」	・p.250の「⑦じゅんび」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	100	○組分けの仕方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・整数の性質を使った分類整理の動機づけ	・予習として、p.100の絵や図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①偶数・奇数		101	○整数を偶数と奇数という観点から類別できることを理解する。	・偶数、奇数の意味 《偶数、奇数》	
②倍数と公倍数	2	102	○倍数の意味を理解し、いろいろな数の倍数を調べる。	・倍数の意味 《倍数》	
	3	103	○公倍数や最小公倍数の意味を理解し、公倍数や最小公倍数について調べる。	・公倍数、最小公倍数の意味 《公倍数、最小公倍数》	
	4	104	○公倍数や最小公倍数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公倍数の見つけ方の工夫、3つの数の公倍数	
	5	105	○与えられた2つの数量の公倍数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公倍数を使った問題解決	

③約数と公約数	6	106	○約数の意味を理解し、いろいろな数の約数を求める。	・約数の意味 《約数》	
	7	107	○公約数や最大公約数の意味を理解し、公約数や最大公約数について調べる。	・公約数、最大公約数の意味 《公約数、最大公約数》	
	8	108	○公約数や最大公約数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公約数の見つけ方の工夫、3つの数の公約数	
	9	109	○与えられた2つの数量の公約数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公約数を使った問題解決	
学びのまとめ	10	110～111	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

8 分数(1)					
目 標					指導時数・時期
○ 分数について、分母が異なるときの比較や加減計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、約分や通分の意味を理解して処理できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 (授業内7時間)
(知) ・分数の約分・通分について理解し、異分母分数の加減計算ができる。					2学期制：9月中旬～10月上旬
(思) ・単位の考えに着目して、異分母分数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。					3学期制：9月下旬～10月上旬
(態) ・進んで分数の性質を調べたり、いろいろな分数の加減計算に取り組もうとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「分数」	・p.251の「⑧じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	112	○分数を組み合わせて1の大きさをつくることを通して、分数について考えていくという単元の課題をつかむ。	・1の大きさづくりによる学習の動機づけ	・予習として、p.112の絵や図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①等しい分数		113～114	○等しい分数のつくり方とその性質について理解する。	・分数の数直線、等しい分数のつくり方	
	2	115	○等しい分数の性質をもとに、約分の意味とその仕方について理解する。	・約分の意味、約分の仕方 《約分する》	
	3	116	○等しい分数の性質をもとに、通分の意味とその仕方について理解する。 ○異分母分数の大小比較ができる。	・通分の意味、通分の仕方 《通分する》	
	4	117	○通分の仕方について理解を深める。	・通分の仕方の工夫、3つの数の通分	
②分数のたし算・ひき算	5	118	○異分母分数の加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・異分母分数の加減(約分なし)	※本時の学習後であれば、p.121の「練習」の問題1は授業外で取り組ませることが可能。
	6	119	○答えが約分できる場合や3口の場合の異分母分数の加減計算ができる。	・異分母分数の加減(約分あり)	※本時の学習後であれば、p.121の「練習」の問題2・3は授業外で取り組ませることが可能。
	7	120	○帯分数どうしの加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・帯分数の加減	※本時の学習後であれば、p.121の「練習」の問題4・5は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	8	121	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
学びのまとめ	9	122～123	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.286の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

思 図を使って考えよう					
目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して同じものに目をつけて解法を考えることを通して、相殺や置換の考え方を活用して解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 (授業内 2時間) 2学期制：10月上旬 3学期制：10月上旬
(知) ・相殺や置換の考え方を理解することができる。 (思) ・数量の関係を図に整理し、同じものに目をつけて相殺や置換の考え方を活用して解決することができる。 (態) ・相殺や置換の考え方を活用して解く思考法のよさがわかり、進んで活用しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	124	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して相殺の考え方を活用して問題を解くことができる。	・相殺の考え方を活用して解く問題	
	2	125	○数量の関係を図に表し、共通部分に着目して置換の考え方を活用して問題を解くことができる。	・置換の考え方を活用して解く問題	

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内 0時間) 2学期制：10月上旬 3学期制：10月上旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	126～127	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

9 面積					
目 標					指導時数・時期
○ 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めることができるようにしたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 (授業内 11時間) 2学期制：10月中旬～11月上旬 3学期制：10月中旬～11月上旬
(知) ・底辺と高さの意味を理解し、公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。 (思) ・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくったりすることができる。 (態) ・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「面積」「垂直・平行と四角形」 ・5年「合同な図形」	・p.251の「㊟じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定) ①三角形の面積	1	128 129～130	○直角三角形の面積の求め方を考えることができる。 ○三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・直角三角形の面積の求め方 ・面積の学習の動機づけ	・予習として、p.128の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。
	2	131	○三角形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・鋭角三角形の面積の求め方	
	3	132～133	○三角形の面積公式を導く。	・三角形の面積公式 ・コラム「三角形の底辺と高さ」 《底辺、高さ》	※本時の学習後であれば、p.143の「練習」の問題1は授業外で取り組ませることが可能。
②平行四辺形の面積	4	134～135	○平行四辺形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・平行四辺形の面積の求め方	
	5	136～137	○平行四辺形の面積公式を導く。	・平行四辺形の面積公式 ・コラム「平行四辺形の面積の公式を使って」	
	6	138～139	○高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え、面積公式が適用できることを理解する。	・高さが外にある三角形や平行四辺形の面積の求め方	※本時の学習後であれば、p.143の「練習」の問題2・3は授業外で取り組ませることが可能。
③台形・ひし形の面積	7	140～141	○台形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○台形の面積公式を導く。	・台形の面積の求め方と面積公式 ・コラム「三角形の面積の公式を使って」 《上底、下底》	
	8	142	○ひし形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○ひし形の面積公式を導く。	・ひし形の面積の求め方と面積公式	※本時の学習後であれば、p.143の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。

●練習	9	143	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・「授業外」で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
④面積の求め方のくふう	10	144～145	○一般四角形の面積を三角形に分割して求めることができる。	・三角形分割による多角形の求積	
	11	146	○底辺の長さが等しく、高さも等しい三角形や平行四辺形は、面積も等しくなることを理解する。	・平行線にはさまれた平行四辺形や三角形の面積	
⑤面積の比例	12	147	○三角形の高さや底辺の長さを変えたとき面積の変わり方を調べる。	・三角形の高さと面積(底辺と面積)の比例関係	
学びのまとめ	13	148～149	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は「授業外」で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.286 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

10 平均とその利用

		目 標		指導時数・時期	
		○ 平均について、その意味や求め方を理解し、いろいろな場面で平均を調べたり平均を使って考えたりすることを通して、その理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		6 時間 (授業内 5 時間) 2 学期制：11 月上旬～11 月中旬 3 学期制：11 月上旬～11 月中旬	
		(知) ・平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、それをを用いて長さなどを概則したりすることができる。			
		(思) ・平均の意味にもとづいて、部分の平均から、全体量の見積もり方を考えたり、全体の平均の求め方を考えたりすることができる。			
		(態) ・平均を用いることよき気づき、進んで身近な事柄の考察や表現に用いようとする。			
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	「授業外」で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」	・p.252 の「@じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	150	○生活場面で量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○平均の意味や求め方について理解する。	・ジュースづくりによる学習の動機づけ	・予習として、p.150 の絵や図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①平均		151		・測定値の平均の意味とその求め方 《平均》	
	2	152	○0 を含む場合の平均の求め方や平均が小数になる場合があることを理解する。	・測定値に 0 がある場合の平均、平均が小数值になる場合	
	3	153	○いくつかの平均から全体を見積もる方法を理解する。	・部分の平均から全体を見積もること、身のまわりの平均	※p.153 の問題 7 の身のまわりから探す活動は「授業外」で取り組ませることが可能。
	4	154	○いくつかの部分の平均から、部分を合わせた全体の平均を求める方法を理解する。	・部分の各平均から全体の平均を求めること	
②平均を使って	5	155	○測定値の誤差をなくす方法として平均を用いればよいことに気づき、それを活用する。	・1 歩の歩幅の平均を調べること ・コラム「平均の求め方の工夫」	
学びのまとめ	6	156～157	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は「授業外」で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.286 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

11 単位量あたりの大きさ

目 標					指導時数・時期
<p>○ 混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					4時間 (授業内 3時間) 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬
<p>(知) ・単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいなどを比べたりすることができる。</p> <p>(思) ・混みぐあいなどの異種の2量が関係する事柄の程度の比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って表したり、程度の大小を判断したりすることができる。</p> <p>(態) ・単位量あたりの大きさを比較することのよさがわかり、進んで身のまわりの異種の2量が関係する事柄の程度を比べようとする。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・4年「小数÷整数」 ・5年「小数のわり算」 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.252の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	158	○混みぐあいの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・混みぐあいを比べることによる学習の動機づけ ・異種の2量のそれぞれを単位とした比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、p.158の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
		159～160	○単位量あたりの大きさを比べてみることができる。		
	2	161	○数量の関係をもとに単位とするほうの量を決め、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・異種の2量の一方を単位とした比較 	
	3	162	○単位量あたりの大きさのよさに気づき、人口密度や燃費といったよく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口密度や燃費などの身のまわりで使われる単位量 《人口密度》 	<ul style="list-style-type: none"> ※p.162の問題4の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
学びのまとめ	4	163	○学習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価とふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.287の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

12 分数(2)

目 標					指導時数・時期
<p>○ 分数について、商としての分数の意味を理解し、分数や小数・整数の関係を調べたり分数を使って割合の問題を解決したりすることを通して、分数の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					5時間 (授業内 4時間) 2学期制：11月中旬～11月下旬 3学期制：11月中旬～11月下旬
<p>(知) ・商としての分数の意味や、分数と小数・整数の関係について理解することができる。</p> <p>(思) ・分数の意味や表現に着目して、商を分数で表したり、分数と小数・整数の関係について考えたりすることができる。</p> <p>(態) ・分数のよさが分かり、進んで分数の性質を調べたり、分数のさまざまな意味をまとめたりしようとする。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3, 4年「分数」 ・5年「分数(1)」 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.252の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	164	○わり算の場面における式と答えの表し方を通して、単元の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習のふりかえりと分数の学習の動機づけ ・商としての分数の意味(分数の第二義) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、p.164の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①わり算と分数		165	○(整数)÷(整数)の商を分数で表せることを理解する。		
	2	166～167	○何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・分数倍の意味(第1用法) 	
②分数と小数・整数の関係	3	168	○分数を除法の商とみて、分数を小数で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を小数で表すこと 	
	4	169	○整数・小数を分数で表す方法を考え、整数・小数と分数を数として統合的にとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小数・整数を分数で表すこと 	
学びのまとめ	5	170～171	○学習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価とふりかえり、活用問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.287の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

13 割合

目 標					指導時数・時期
<p>○ 割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増減する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					9時間 (授業内 8時間)
<p>(知) ・割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しくとらえて計算処理することができる。</p>					2学期制：11月下旬～12月中旬
<p>(思) ・割合を用いて、数量の関係を考えたり、比較したりすることができる。また、割合の和や差、積を考えて問題を解くことができる。</p>					3学期制：11月下旬～12月中旬
<p>(態) ・割合で考えたり比較したりすることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「割合」 ・5年「小数のかけ算」「小数のわり算」	・p.253の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	172	○定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・定員をもとにして希望者を比べることによる学習の動機づけ	・予習として、p.172の表を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①割合		173	○割合の意味について理解し、割合を求めることができる。	・割合の意味、割合を求める問題(第1用法) 《割合》	
	2	174	○全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。	・全体に対する部分の割合、部分に対する部分の割合(第1用法)	
	3	175	○全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。	・比較量を求める問題(第2用法)	
	4	176～177	○全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。	・基準量を求める問題(第3用法) ・コラム「文と図と式」	
②百分率	5	178	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 ○割合を求め、百分率で表すことができる。	・百分率の意味、小数と百分率の関係 《百分率、%、パーセント》	
	6	179	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。	・百分率を使った問題	
③割合を使って	7	180	○百分率の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題(第2用法)	
	8	181	○百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題(第3用法) ・コラム「消費税」	
学びのまとめ	9	182～183	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.287の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

思 表を使って考えよう(1)

目 標					指導時数・時期
<p>○ 文章題において、数量の関係を表に整理してその増え方に着目して解法を考えることを通して、数の少ない場合から順に調べる考え方をを使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					2時間 (授業内 2時間)
<p>(知) ・伴って変わる2つの数量に着目し、それらの関係を表に整理することができる。</p>					2学期制：12月中旬
<p>(思) ・図や表をもとに考え、2つの数量の間のきまりを見つけ出すことができる。また、「数の少ない場合から順に調べる」思考法のよさがわかり、これを活用して問題を解くことができる。</p>					3学期制：12月中旬
<p>(態) ・伴って変わる2つの数量をみつけ、それらの関係を表に整理して進んで調べようとする。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	184	○紙を折ってできる長方形の数について、折った回数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・数の変化を表に整理してとらえ、変化の規則性を見つけて解く問題(等比数列)	
	2	185	○階段状に色板を並べるときの枚数について、段の数が1のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・数の変化を表に整理してとらえ、変化の規則性を見つけて解く問題(階差数列)	

活 わくわく算数ひろば					指導時数・時期
					2時間 (授業内 2時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
●見積もりを使って	1	186	○ある数量以上の部分とそれ以下の部分を差し引いて結果を見積もり、判断することができる。	・相殺による見積もり	
	2	187	○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	・切り上げや切り捨てによる見積もり	

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内 0時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	188～189	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

14 円と正多角形					
目 標					指導時数・時期
○ 円と正多角形について、正多角形の構成や作図などの活動や円周の求め方を考えるといったことを通して、平面図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7時間 (授業内 6時間) 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
(知) ・正多角形の意味と性質を理解し、作図することができる。また、円周率の意味とその求め方を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。					
(思) ・円や正多角形の性質を活用して、正多角形の作図の仕方を考えることができる。また、直径と円周の関係を、見通しをもって帰納的に考えることができる。					
(態) ・円や正多角形に関心をもち、その性質について調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「円と球」 ・5年「合同な図形」	・p.254の「㊤じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定) ①正多角形	1	190 191	○紙を折って正六角形をつくり、正多角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・折り紙作業による学習の動機づけ ・正多角形の定義 《正多角形》	・予習として、p.190 の図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	192	○円の中心のまわりの角を等分して正多角形をかく。	・中心角を等分することによる正多角形の作図 ・身のまわりの正多角形	※p.192 の問題 4 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
	3	193	○コンパスを使った正六角形の作図を通して、正六角形は合同な 6 つの正三角形で構成されることを知る。	・円周を等分することによる正六角形の作図、模様づくり	
(課題設定) ②円周と直径	4	194 195～196	○直径の違う輪を 1 回転させて進む距離を比べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○円周と直径の関係について調べ、円周率や円周を求める式について理解する。	・円の回転作業による学習の動機づけ ・円周と直径の関係、円周を求める式 《円周率》	・予習として、p.194 の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	5	197	○円周率を用いて円周や直径を求めることができる。	・円周や直径を求める問題 ・身のまわりの円の円周や直径	※p.197 の問題 6 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
③円周と比例	6	198	○円の直径と円周の関係を表にかいて調べ、円周は直径に比例することを理解する。	・直径と円周の比例関係	
学びのまとめ	7	199	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.287 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

15 割合のグラフ

目 標					指導時数・時期
○ 割合のグラフについて、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 (授業内 5時間) 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
(知) ・帯グラフや円グラフについて理解し、帯グラフや円グラフを用いて資料を整理することができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。 (思) ・帯グラフや円グラフをもとに適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切なグラフを選択したりすることができる。また、得られた結論について多面的に考えることができる。 (態) ・帯グラフや円グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身のまわりの事柄などを調べるときにそれをいかそうとする。					授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	指導時数・時期
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「割合」	・p.253の「㊦じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定) ①帯グラフと円グラフ	1	200 201	○帯グラフや円グラフについて調べていくという単元の課題をつかむ。 ○帯グラフと円グラフの仕組みを理解し、それらのグラフをよむことができる。	・帯グラフや円グラフを知ることによる学習の動機づけ ・帯グラフや円グラフのよみ方とその特徴 《帯グラフ、円グラフ》	・予習として、p.200の表やグラフを確認して、本単元の学習内容の見直しをもつ。
	2	202～203	○帯グラフと円グラフをかく。	・帯グラフや円グラフのかき方	
	3	204～205	○複数のグラフから情報を適切に読みとることができる。	・経年変化の帯グラフ、複数グラフを関連づけて考察すること ・身のまわりの帯グラフや円グラフ	※p.205の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
②帯グラフと円グラフを使って	4 5	206～207	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりの課題解決にいかそうとする。	・統計的な問題解決の方法	・予習として、p.206の問題1を確認して、どんなことを調べてみたいかを考える。 ※調べたことを整理する活動は授業外で取り組ませることが可能。
学びのまとめ	6	208～209	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.287 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

* 復習

目 標					指導時数・時期
○ 割合のグラフについて、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					1時間 (授業内 0時間) 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬
(知) ・角柱や円柱の意味を知り、その特徴を調べて理解することができる。また、三角柱や円柱の見取図や展開図をかくことができる。 (思) ・角柱や円柱の構成要素に着目して、分析的に特徴を考えることができる。また、見取図や展開図のかき方を考えることができる。 (態) ・角柱や円柱の特徴に関心をもち、進んでその特徴を調べたり、見取図や展開図をかこうしたりする。					授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	指導時数・時期
	1	210～211	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

16 角柱と円柱

目 標					指導時数・時期
○ 角柱や円柱について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 (授業内 5時間) 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬
(知) ・角柱や円柱の意味を知り、その特徴を調べて理解することができる。また、三角柱や円柱の見取図や展開図をかくことができる。 (思) ・角柱や円柱の構成要素に着目して、分析的に特徴を考えることができる。また、見取図や展開図のかき方を考えることができる。 (態) ・角柱や円柱の特徴に関心をもち、進んでその特徴を調べたり、見取図や展開図をかこうしたりする。					授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	指導時数・時期
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「直方体と立方体」	・p.254の「㊦じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

(課題設定) ①角柱と円柱	1	212～213	○いろいろな箱を観察することを通して、角柱や円柱について調べていくという単元の課題をつかむ。	・立体物を観察することによる学習の動機づけ ・立体の概念、角柱と円柱の弁別 《立体、角柱、円柱》	・予習として、p.212の写真や図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	214～215	○底面や側面の形、それらの位置関係を調べることを通して、角柱、円柱について理解する。	・角柱や円柱の性質 《底面、側面、曲面》	
②見取図とてん開図	3	216	○角柱や円柱の見取図をかくことができる。	・角柱と円柱の見取図 ・身のまわりの角柱や円柱	※p.216の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
	4	217	○角柱の展開図のかき方を理解し、展開図を組み立てて角柱をつくることができる。	・角柱の展開図	
	5	218	○円柱の展開図のかき方を理解し、それを組み立てて円柱をつくることができる。	・円柱の展開図	
学びのまとめ	6	219	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.287の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

17 速 さ

目 標			指導時数・時期		
○ 速さについて、その比べ方や表し方を理解し、いろいろな速さに関する問題を解決することを通して、速さ・道のり・時間の関係の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。			6時間 (授業内5時間) 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬		
(知) ・速さの意味について理解し、速さを時速、分速、秒速などの単位を用いて表したり、比べたりすることができる。					
(思) ・単位量あたりの考え方をを用いて、道のりと時間の関係をもとに速さを考えたり、道のりや時間の求め方を考えたりすることができる。					
(態) ・単位量あたりの考え方をを用いて、進んで速さ・道のり・時間の関係を調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「単位量あたりの大きさ」	・p.255の「㊦じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.288の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	220	○時間と道のりの関係として速さがとらえられることを知り、単元の課題をつかむ。 ○単位量あたりの大きさを使って、速さを比べることができる。	・速さの意味と学習の動機づけ ・速さの比べ方	・予習として、p.220の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
		221			
	2	222	○速さの表し方を理解し、時間の単位に応じて適切に表すことができる。	・速さを求める問題 《時速、分速、秒速》	
	3	223	○速さと時間から、その道のりを求めることができる。	・道のりを求める問題	
	4	224	○道のりと速さから、その時間を求めることができる。	・時間を求める問題	
5	225	○時速と分速と秒速との相互の関係を理解し、いろいろな速さを比べることができる。	・時速・分速・秒速の関係	※p.225の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。	
学びのまとめ	6	226～227	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題 ・コラム「光の速さ」	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.287の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

18 変わり方

目 標					指導時数・時期
<p>○ 伴って変わる 2 つの数量について、その関係を○や△を使って式に表したり表に整理して変わり方を調べたりすることを通して、変化の特徴をとらえたり比例するかどうかを判断したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					3 時間 (授業内 3 時間) 2 学期制：2 月下旬～3 月上旬 3 学期制：2 月下旬～3 月上旬
(知) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を、○や△を使って式に表したり、変わり方を表にかいて調べたりすることができる。 (思) ・伴って変わる 2 つの数量を見つけ、その関係を式や表を用いて考えることができる。また、その関係が比例するかどうかを判断し、説明することができる。 (態) ・進んで伴って変わる 2 つの数量をみつけようとしたり、その関係や変化を式や表を用いて調べようとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・4 年「変わり方」 ・5 年「比例」 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.255 の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.288 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	228 229	○日常場面の変化の様子をとらえることを通して、単元の課題をつかむ。 ○差一定の 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる 2 つの数量を見つけることによる学習の動機づけ ・$y=x+a$ となる関係についての考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、p.228 の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	230～231	○比例する 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$y=a\times x$ となる関係についての考察 ・道のりと時間の比例関係 	
	3	232～233	○やや複雑な 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・$y=a\times x+b$ となる関係についての考察 ・コラム「多角形の頂点の数と角の大きさの和の関係」 	

思 表を使って考えよう(2)

目 標					指導時数・時期
<p>○ 文章題において、数量の変化を表に整理してその和や差に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりをみつける考え方を活用して解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>					2 時間 (授業内 2 時間) 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
(知) ・伴って変わる 2 つの数量の和や差に着目し、数量の和や差の変化を表に整理することができる。 (思) ・数量の和や差の変化を整理した表を使って考え、きまりを見つけて問題を解くことができる。 (態) ・表を使って考えるよさに気づき、進んで表からきまりを見つけて問題を解こうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	234	○出会うまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2 量の和の変わり方に着目して解く問題 (出会い算) 	
	2	235	○追いつくまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2 量の差の変わり方に着目して解く問題 (追いつき算) 	

活 わくわく算数ひろば

					指導時数・時期
					3 時間 (授業内 2 時間) 2 学期制：3 月上旬～3 月中旬 3 学期制：3 月上旬～3 月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
●算数ラボ	1	236～237	○直進と回転の命令を組み合わせて、正多角形を作図するプログラムをつくることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正多角形を作図するときのプログラミング 	
●みらいへのつばさ	2	238～239	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、食料自給率についての問題を解決できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフなどの読み取り、情報選択 (みらいさんの食料自給率についてのメモ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習後、p.240 の「めあて」を確認して、自身の生活を見直して気づいたことを整理する。
	3	240～241	○食料自給率の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率を高める計画を立てる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画をつくる活動は授業外で取り組む。(授業内 0 時間)

* もうすぐ6年生 (5年のふく習)					指導時数・時期
					3時間 (授業内1時間) 2学期制:3月中旬 3学期制:3月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	242~243	○5年生の学習内容の確認と持続	・復習	授業外で取り組む。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
	2	244~245			
	3	246			

★ 学びのサポート		
ページ	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
248~255	・じゅんび	・単元前の「じゅんび」に取り組み、QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
256~279	・もっと練習	・本時の補充として「もっと練習」に取り組み、p.285~287の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
280~301	・算数資料集	※授業内・外問わず、必要に応じて適宜確認させる。

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。